

新病院計画（案）

はじめに

- 玉野市では少子高齢化や人口減少といった社会的な課題が全国より先んじて顕著となってくる中で、地域医療の一翼を担う玉野市民病院、玉野三井病院のいずれも施設の老朽化が進んでおり、将来に向けて安定的、継続的に地域医療を担うことのできる新たな施設の整備が急務となっています。
- 一方で、地域医療を取り巻く環境は大きな変革期の中にあり、いずれの病院にあって将来的な医師不足等の懸念を抱え、中長期的な医療体制の継続へ向けた対応が必要となっています。
- このため、玉野市における中核医療機関である玉野市民病院と玉野三井病院が連携し、地域医療の拠点を作り上げるとともに、健全で持続可能な経営を実現するべく、両病院間での協議を続けて参りました。

現状と課題

1. 人口及び将来推計患者

① 将来推計人口

国の機関による推計では2040年には玉野市の人口は4万人を下回ると予測されています。

<人口割合>

年少	2015年	10.5%	⇒	2045年	9.1%
高齢者	2015年	35.4%	⇒	2045年	44.9%

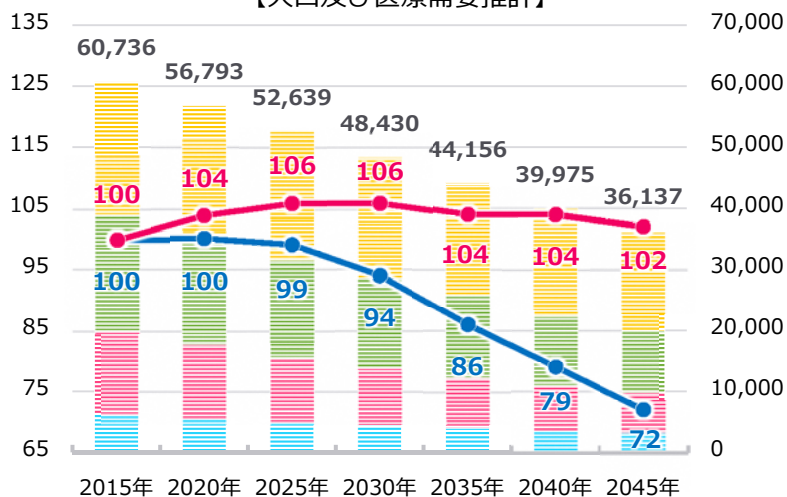
② 医療需要（2015年＝100）

受診率の高い高齢者人口割合の増加に伴って、一時的に医療需要は維持されますが、全体的な人口の減少に伴って次第に医療需要も減少していくと予測されています。

<指数>

全国平均	2015年	100	⇒	2045年	102
玉野市	2015年	100	⇒	2045年	72

【人口及び医療需要推計】



2. 医療行政の動向

- ・玉野市が属する県南東部医療圏では、第8次岡山県保健医療計画において定められている基準病床に対し1,500床程度が過剰な状態となっています。
- ・また、同計画にまとめられた地域医療構想においても、回復期の機能をもった病床を除く、高度急性期、急性期、慢性期の病床が必要病床数に対して過剰となっており、回復期への転換又は病床の削減が求められています。

3. 近隣の医療機関と患者の受療動向

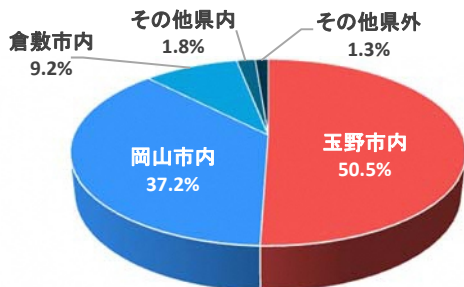
① 市内の医療機関の状況

現在、市内には7つの病院が運営されていますが、この数年で3病院が閉院するとともに、診療所でも休止等が増えてきています。

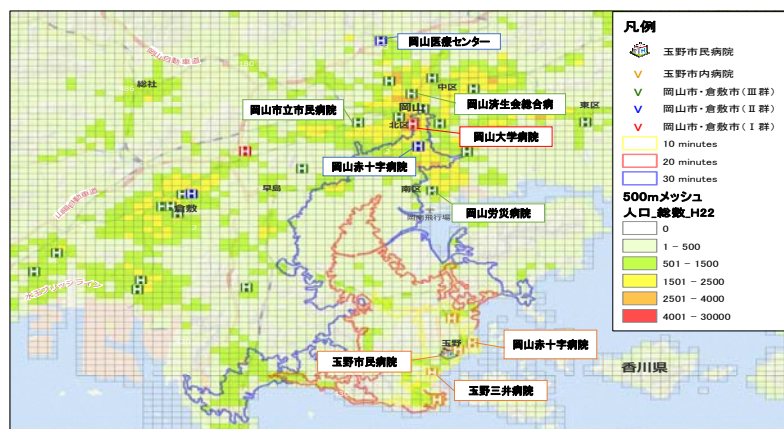
② 市外の医療機関の状況

玉野市から自動車移動距離30分圏内に高度急性期、急性期医療機能を持つ大学病院群、特定病院群が同一医療圏である岡山市に多数設置されています。

【玉野市民が受診する医療機関の所在地】



【医療機関の位置関係】



③ 患者の受療動向

玉野市民の受療動向を整理するため、保健データに基づき医療機関別に入院患者数を集計すると、約半数となる49.5%の市民が市外の医療機関を受療していることがわかりました。

新病院の基本的な考え方

地域医療の中核病院

地域の医療機関、介護施設等と連携しながら多様な医療ニーズに対応できる機能を備えた病院とします。

断らない医療の実現

中軽度の地域救急の分野においては、断ることなく受け入れを行い、救急医療体制の充実を図ります。

在宅医療の充実

患者の意思や権利を尊重し、可能な限り在宅での療養ができるよう、在宅サービスの展開を充実させていきます。

新病院が
目指す姿

予防医療の提供

病気の早期発見・治療から地域住民の健康増進を図るため、各種健診や人間ドック等の提供を行います。

災害対応可能な病院

耐震設備を備えるとともに、災害時であっても診療が継続できるよう、必要な機能・体制を備えた病院とします。

安定的な経営の確保

医療環境の変化に即し、最新の情報を分析しながら経営の効率化を図り、安定的な経営を確保します。

1. 新病院の診療機能

入院	一般病棟（一般病床＋地域包括ケア病床） 回復期リハビリテーション病棟 障害者病棟 療養病棟
外来	内科、外科、整形外科、小児科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、婦人科、 脳神経外科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科
救急医療	1次、2次救急の受け入れ 地域の医療機関及び救急隊との連携
小児・周産期医療	外来診療の継続
リハビリ	365日リハビリテーション アウトカムの管理（在宅復帰支援） 外来リハビリテーション
在宅医療	在宅療養支援病院 訪問診療 訪問看護／訪問リハビリテーション 通所リハビリ（デイケア）
予防医療	健診センター 健康診断（企業健診、成人病健診、生活習慣病予防健診） 特定検診（アスベスト検診、原爆被害者検診、がん検診） 人間ドック／脳ドック 予防注射（インフルエンザ、肺炎球菌ワクチン、小児予防接種）
産業医	産業医資格の取得
薬局	院外処方／ジェネリック薬品の推進 服薬指導／病棟薬剤業務 持参薬管理
栄養給食	給食（業者委託） 栄養指導
その他	岡山大学、医師会、市内外の医療機関との連携強化 定期的な健康教室、市民講座の開催 市施策との連携

新病院計画（案）

新病院の建設計画

1. 新病院概要

延床面積：約15,200㎡（190床×80㎡）
 近年整備を行った同規模病院の事例より
 1床あたり延床面積を80㎡として算定

病床規模：190床

病棟構成：一般病棟（一般＋地域包括ケア病床） 50床
 回復期リハビリテーション病棟 50床
 障害者病棟 40床
 療養病棟 50床

構造：鉄筋コンクリート造 又は 鉄骨造 地上6階
 耐震構造

【フロア構成イメージ】

6F	療養病棟	設備
5F	障害者病棟	管理
4F	一般病棟	手術
3F	回復期リハビリ病棟	リハビリ
2F	外来	検査 健診センター
1F	受付 薬局 給食 放射線 救急	

2. 整備スケジュール

区分	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
経営統合	→		地独法化			
基本計画	→					開院
設計		→				
建設工事			→			
開院準備					→	

※最短での想定によるスケジュールのため変更になる場合があります。

2病院の統合計画

1. 運営体制の移行

地方独立行政法人制度を活用し、玉野市民病院と玉野三井病院が統合し1つの法人のもとで運営を行う。
 ただし、新病院が完成するまでの当面の間は、2病院体制を維持し新病院完成後の機能集約を視野に入れつつそれぞれの病院運営を継続する。

